

CONTAINER WITH CAP

Patent Number: JP10007121
Publication date: 1998-01-13
Inventor(s): SHIOKAWA MINORU; YAMAGISHI TOSHIMITSU
Applicant(s): SHISEIDO CO LTD
Requested Patent: ☐ JP10007121
Application Number: JP19960161436 19960621
Priority Number(s):
IPC Classification: B65D1/02; B65D41/04
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a container with a cap equipped with a tubular container which can be self-standing in ordinary use and can be small in volume at disposing of it so as to facilitate its handling.

SOLUTION: In a container with a cap formed out of a flexible material comprising a container body 11 to be filled with contents and a cap 12 to be mounted on the container body 11, a foldable fold-back section 13 is formed integrally with the container body 11 so as to protrude toward the inside of the container body 11. The fold-back section 13 in a folded state is made to be a bottom part 14 so as to make the container body 11 erect independently. Thus, the container with the cap can be self-standing in use. In disposing of it, the fold-back section 13 is pulled out to the outside, so that the container can be discarded in a state that its volume is reduced.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-7121

(43)公開日 平成10年(1998)1月13日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D	1/02		B 6 5 D	C
	41/04		41/04	Z

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 7 頁)

(21)出願番号 特願平8-161436

(22)出願日 平成8年(1996)6月21日

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72)発明者 塩川 穰

東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会
社資生堂内

(72)発明者 山岸 利光

埼玉県久喜市清久町5 株式会社資生堂久
喜工場内

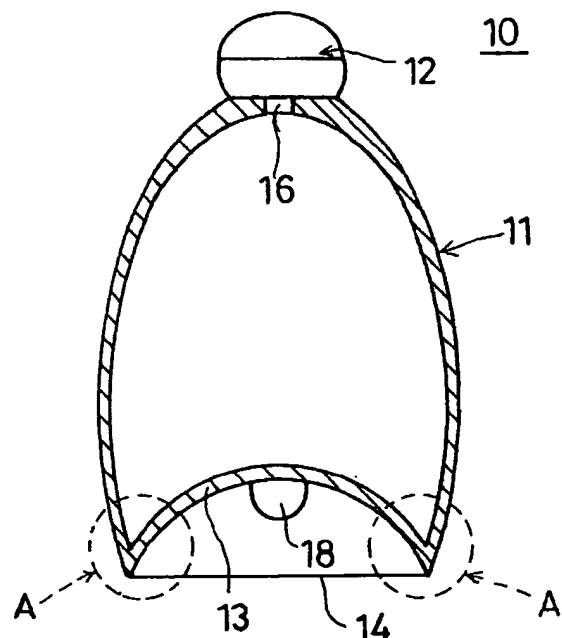
(74)代理人 弁理士 伊東 忠彦

(54)【発明の名称】 キャップ付き容器

(57)【要約】

【課題】本発明はチューブ状容器を具備するキャップ付き容器に関し、通常使用時には自立させることができると共に廃棄時には容積を小さくし取扱を容易とすることを課題とする。

【解決手段】可撓性を有する材料により形成されると共に内容物が装填される容器本体11と、この容器本体11に装着されるキャップ12とにより構成されるキャップ付き容器において、容器本体11の内部に向け突出するよう折り返し可能な折り返し部13を容器本体11に一体的に形成し、折り返された状態の折り返し部13を底部14として容器本体11が自立するよう構成する。これにより、使用時にはキャップ付き容器を自立させることができ、廃棄時には折り返し部13を表に引き出すことにより容積を小さくした状態で廃棄することができる。





European Patent
Office

**SUPPLEMENTARY
EUROPEAN SEARCH REPORT**

0517925

Application Number
EP 92 90 1913

DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT			
Category	Citation of document with indication, where appropriate, of relevant passages	Relevant to claim	CLASSIFICATION OF THE APPLICATION (Int.Cl.5)
	No further relevant documents disclosed -----		C07K15/06 C12P21/00 A61K37/02
			TECHNICAL FIELDS SEARCHED (Int.Cl.5)
			C07K C12P A61K
The supplementary search report has been drawn up for the claims attached hereto.			
Place of search THE HAGUE		Date of completion of the search 27 May 1994	Examiner Montero Lopez, B
CATEGORY OF CITED DOCUMENTS			
X : particularly relevant if taken alone Y : particularly relevant if combined with another document of the same category A : technological background O : non-written disclosure P : intermediate document		I : theory or principle underlying the invention E : earlier patent document, but published on, or after the filing date D : document cited in the application L : document cited for other reasons A : member of the same patent family, corresponding document	

的に形成し、この折り返し部が容器本体の内部に向け突出するよう折り返し可能な構成とすることにより、折り返された状態において折り返し部は広い面積の底部を形成することとなる。また、折り返し部の折り返し部位における強度は、容器本体の他の部位に比べて強くなる。

【0013】よって、容器本体を自立させることが可能となる。また、折り返された折り返し部の状態、及び折り返し部の折り返し部位における強度は、容器本体内の内容物の充填量に影響を受けないため、内容物の充填量に拘わらず容器本体、即ちキャップ付き容器を自立した状態に維持することができる。

【0014】一方、容器本体を廃棄する場合には、折り返されていた折り返し部を元の状態に戻す。これにより、折り返し部の折り返し部位における強度は低下し、可撓性材料により形成された容器本体は可撓変形することが可能となり、従って容積を小さくした状態でキャップ付き容器を廃棄することができる。

【0015】また、請求項2記載の発明によれば、折り返された状態の折り返し部を元の状態に戻す際に操作される操作部を折り返し部に形成したことにより、折り返し部を元の状態に戻す作業を容易に行うことができる。

【0016】更に、請求項3記載の発明によれば、キャップが装着される容器本体の上部にも折り返し部を形成したことにより、容器本体の上部及び下部における面積を広くすることができ、よって大なる容積を有する容器本体を実現することができる。

【0017】また、容器本体を廃棄する場合には、折り返されていた上部及び下部の折り返し部を夫々元の状態に戻すことにより、容積を小さくした状態でキャップ付き容器を廃棄することが可能となる。

【0018】

【発明の実施の形態】次に本発明の実施の形態について図面と共に説明する。図1乃至図3は本発明の第1実施例であるキャップ付き容器10を示している。図1はキャップ付き容器10の通常時における横断面図であり、図2はキャップ付き容器10の廃棄時における正面図であり、図3はキャップ付き容器10の廃棄時における操作を説明するための図である。

【0019】先ず、図1を用いて通常時におけるキャップ付き容器10について説明する。ここで、通常時とは使用者がキャップ付き容器10を使用している状態、即ちキャップ付き容器10内の内容物を使い終わり、キャップ付き容器10を廃棄する前までの時をいう。

【0020】キャップ付き容器10は、大略すると容器本体11とキャップ12とにより構成されている。容器本体11は、本実施例では略たまご型の形状を有しており、例えばポリエチレン(PE)等の樹脂により形成されることにより可撓性を有した構成とされている。

【0021】この容器本体11の下部には折り返し部13が形成されており、この折り返し部13は容器本体1

1の内側に向け折り返された構成とされている。折り返された状態において、折り返し部13は容器本体11内に突出した略凹曲面形状を有している。また本実施例では、容器本体11の折り返し部13を折り返す部位に、折り返し操作を容易とするための溝部15(図2に示される)が形成されている。

【0022】上記のように、折り返し部13を容器本体11の内側に折り返すことにより、容器本体11の下部には底部14が形成される。この底部14は折り返し部13が折り返される折り返し部位で形成されており、従ってこの底部14は環状形状となっている。

【0023】この環状に形成される底部14に囲まれる部分の面積は、容器本体11に内容物を最大限充填した状態における溝部15における断面積と略等しくなる。よって、底部14は広い面積を有した構成となる。更に、折り返し部13の折り返し部位(図1に矢印Aで示す)における強度に注目すると、この折り返し部位Aでは容器本体11の剛性は高く、よってその強度は容器本体11の他の部位に比べて強くなっている。

【0024】このように、本実施例のキャップ付き容器10では、底部14が広い面積を有し、かつ折り返し部位A(即ち、底部14)の強度が強いため、容器本体11は自立することが可能となる。よって、化粧品容器としてキャップ付き容器10を用いた場合、陳列台や鏡台等の設置スペースにキャップ付き容器10を立てた状態で置くことができるため、収納性及び視認性を良好とすることができる。

【0025】ところで、容器本体11内に充填された内容物は使用に伴いその量が減少し、また容器本体11は可撓性を有する樹脂により形成されているため、内容物の減少に伴い容器本体11の形状が可撓変化する可以考虑。しかるに、前記したように、折り返し部13の折り返し部位Aにおける強度(剛性)は、容器本体11の他の部位に比べて強いため、容器本体11はこの折り返し部13に支持された変形するようなことはない。よって、キャップ付き容器10は、内容物の使用状態に拘わらず、常に自立した状態を維持することができる。

【0026】また、容器本体11の上端部には開口部16が形成されており、この開口部16の形成位置には、キャップ12が装着脱されるキャップ装着部17が形成されている。キャップ12はキャップ装着部17に対し液密に嵌着脱しうる構成とされている。

【0027】よって、キャップ12がキャップ装着部17に装着された状態では、開口部16から内容物が漏洩することを防止でき、また使用時にはキャップ12をキャップ装着部17から取り外すことにより内容物を開口部16から取り出すことができる。

【0028】一方、折り返し部13の略中央位置には下方に向け突出した操作部18が形成されている。この操

作部18は舌片状の形状を有し、容器本体11と一体的に形成されている。折り返し部13を折り返した状態で、図1に示されるように、操作部18は容器本体11内に突出した折り返し部13内に位置している。即ち、操作部18は外部から見えない部位に形成されているため、操作部18を形成することにより外観意匠が悪くなるようなことはない。

【0029】上記構成を有した操作部18は、キャップ付き容器10を廃棄する時に用いられるが、この操作部18を用いた廃棄時の操作については、説明の便宜上後述するものとする。続いて、上記構成とされたキャップ付き容器10の機能について説明する。

【0030】通常の使用状態におけるキャップ付き容器10は、折り返し部13が容器本体11の内部に折り返された状態となっている。よって、前記したように折り返し部13の折り返し部位Aにおける強度（剛性）は強く、かつ底部14の面積が広いので、キャップ付き容器10は常に自立した状態を維持することができる。

【0031】これにより、キャップ付き容器10を陳列したり或いは鏡台等に設置する場合において、設置スペースを取らずまた視認性を良くすることができる。一方、容器本体11内の内容物を使い尽くし、キャップ付き容器10を廃棄する時には次の操作を行う。図3はキャップ付き容器10を廃棄する時の操作を説明するための図であり、キャップ付き容器10の側断面を示している。

【0032】図3(A)は、内容物を使い尽くした状態の容器本体11を示している。前記したように、内容物を使い尽くしても、容器本体11は変形することなく自立可能な形状を維持している。キャップ付き容器10を廃棄する場合には、図3(A)に示す状態より操作部18を把持し、この操作部18を同図に矢印Fで示す方向に強く引っ張る操作を行う。

【0033】この操作を行うことにより、容器本体11の内側に突出していた折り返し部13は、表側に引き出されることとなり、よって図2及び図3(B)に示される状態になる。即ち、折り返し部13は溝部15より下方に延出した状態となる。尚、上記のように折り返し部13には溝部15が形成されているため、この折り返し部13の引き出し操作は、さほど大きな力を必要とすることなくできる。

【0034】このように折り返し部13が表側に引き出された状態では、折り返し部位A（図1参照）に発生していた強度（剛性）は低下し、よって容器本体11は可撓変形可能な状態となる。従って、容器本体11を潰すことにより、図3(B)に示されるようにキャップ付き容器10の容積は小さくすることができ、これによりキャップ付き容器10の廃棄を容易に行うことができる。

【0035】続いて、本発明の第2実施例について説明する。図4乃至図6は、本発明の第2実施例であるキャ

ップ付き容器10Aを示している。図4はキャップ付き容器10Aの通常時における斜視図であり、図5はキャップ付き容器10Aの廃棄時における斜視図であり、図6はキャップ付き容器10Aの廃棄時における操作を説明するための図である。

【0036】本実施例に係るキャップ付き容器10Aも、大略すると容器本体20とキャップ21とにより構成されている。容器本体20は、例えばポリエチレン（PE）等の樹脂により形成されることにより可撓性を有した構成とされている。この容器本体20の下部には、第1の折り返し部22が形成されている。この第1の折り返し部22には2本の溝部23、24が形成されており、折り返し状態において第1の折り返し部22は各溝部23、24で折り返されることにより、図6に示されるように断面逆W形状となった構成とされている。

【0037】一方、本実施例に係るキャップ付き容器10Aでは、容器本体20の上部に第2の折り返し部25が形成されている。この第2の折り返し部25にも2本の溝部26、27が形成されており、折り返し状態において第2の折り返し部25も各溝部26、27で折り返されることにより、図6に示されるように断面W形状となった構成とされている。

【0038】上記のように、第1の折り返し部22を容器本体20の内側に折り返すことにより、容器本体20の下部には底部28が形成される。この底部28は、第1実施例に係るキャップ付き容器10と同様の理由により大きな面積を有すると共に、その強度（剛性）は容器本体20の他の部位に比べて強くなっている。

【0039】このように、本実施例におけるキャップ付き容器10Aでは、底部28が広い面積を有し、かつ折り返し部位（即ち、底部28）の強度が強いため、容器本体20は自立することが可能となる。よって、化粧品容器としてキャップ付き容器10Aを用いた場合、陳列台や鏡台等の設置スペースにキャップ付き容器10Aを立てた状態で置くことができるため、収納性及び視認性を良好とすることができる。また、第1実施例に係るキャップ付き容器10と同様に、容器本体20内に充填された内容物が減少しても、常に自立した状態を維持することができる。

【0040】一方、本実施例に係るキャップ付き容器10Aは、上部に第2の折り返し部25が形成されているため、この第2の折り返し部25を容器本体20の内側に折り返すことにより、容器本体20の上部には天井部29が形成される。この天井部29は底部28と同一の面積を有しており、よって大きな面積を有している。また、底部28と同様にその強度（剛性）は容器本体20の他の部位に比べて強くなっている。

【0041】このように、本実施例におけるキャップ付き容器10Aでは、底部28及び天井部29が共に広い面積を有し、かつ折り返し部位（即ち、底部28及び天

井部29)の強度が強いため、容器本体20の容器としての剛性は第1実施例に係る容器本体11に比べて更に強くなり、容器本体20をより確実に自立させることができる。

【0042】よって、本実施例に係るキャップ付き容器10Aを用いた場合も、陳列台や鏡台等の設置スペースにキャップ付き容器10Aを立てた状態で置くことができ、収納性及び視認性を良好とすることができる。更に、本実施例に係るキャップ付き容器10Aは、容器本体20の上部に面積が広い天井部29が形成されると共に、下部に同じく面積が広い底部28が形成されるため、容器本体20の容積を大きくすることができる。よって、キャップ付き容器10Aに充填しうる内容物の量を増大させることができる。

【0043】続いて、上記構成とされたキャップ付き容器10Aの廃棄時における操作について図6を用いて説明する。本実施例に係るキャップ付き容器10Aにおいて、容器本体20内の内容物を使い尽くした場合には次の操作を行う。図6(A)は、内容物を使い尽くした状態の容器本体20を示している。容器本体20は、内容物を使い尽くしても変形することなく自立可能な形状を維持している。

【0044】キャップ付き容器10Aを廃棄する場合には、図6(A)に示す状態より底部28の中央部(矢印Bで示す部分)を把持し、この中央部Bを同図に矢印F1で示す方向に強く引っ張る操作を行う。また、これと同時に天井部29の中央部に配設されているキャップ21を把持し、キャップ21を同図に矢印F2で示す方向に強く引っ張る操作を行う。

【0045】この操作を行うことにより、容器本体20の内側に突出していた第1及び第2の折り返し部22、25は表側に引き出されることとなり、よって図5及び図6(B)に示される状態になる。即ち、第1の折り返し部22は上方に、また第2の折り返し部25は下方に延出した状態となる。

【0046】このように第1及び第2の折り返し部22、25が表側に引き出された状態では、各折り返し部位に発生していた強度(剛性)は低下し、よって容器本体20は可撓変形可能な状態となる。従って、容器本体20を潰すことにより、図6(B)に示されるようにキャップ付き容器10Aの容積は小さくすることができ、これによりキャップ付き容器10Aの廃棄を容易に行うことができる。

【0047】

【発明の効果】上述の如く本発明によれば、次に述べる種々の効果を実現することができる。請求項1記載の発明によれば、折り返された状態において折り返し部は広

い面積の底部を形成し、かつ折り返し部の折り返し部位における強度は容器本体の他の部位に比べて強くなるため、キャップ付き容器を自立させることが可能となる。また、容器本体を廃棄する場合には、折り返されていた折り返し部を元の状態に戻すことにより、可撓性材料により形成された容器本体は可撓変形することが可能となる。従って、容積を小さくした状態でキャップ付き容器を廃棄することができ、これによりキャップ付き容器の廃棄を容易に行うことができる。

【0048】また、請求項2記載の発明によれば、折り返された状態の折り返し部を元の状態に戻す際に操作される操作部を折り返し部に形成したことにより、折り返し部を元の状態に戻す作業を容易に行うことができる。更に、請求項3記載の発明によれば、容器本体の上部及び下部における面積を広くすることができ、よって大なる容積を有する容器本体を実現することができる。また、容器本体を廃棄する場合には、折り返されていた上部及び下部の折り返し部を夫々元の状態に戻すことにより、容積を小さくした状態でキャップ付き容器を廃棄することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例であるキャップ付き容器の使用時における断面図である。

【図2】本発明の第1実施例であるキャップ付き容器の廃棄時における正面図である。

【図3】本発明の第1実施例であるキャップ付き容器の廃棄時における操作を説明するための側断面図である。

【図4】本発明の第2実施例であるキャップ付き容器の使用時における斜視図である。

【図5】本発明の第2実施例であるキャップ付き容器の廃棄時における斜視図である。

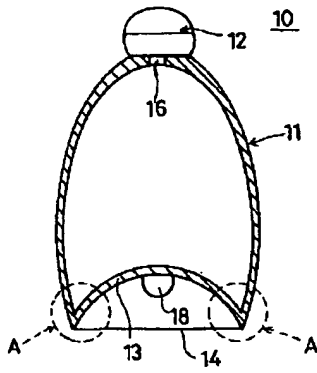
【図6】本発明の第2実施例であるキャップ付き容器の廃棄時における操作を説明するための側断面図である。

【図7】従来のキャップ付き容器の一例を示す図である。

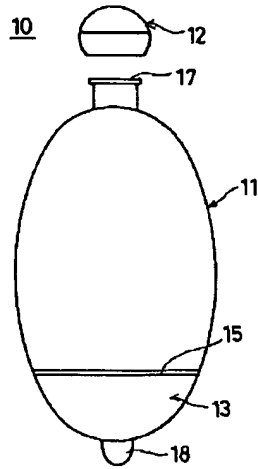
【符号の説明】

- 10, 10A キャップ付き容器
- 11, 20 容器本体
- 12, 21 キャップ
- 13 折り返し部
- 14, 28 底部
- 15, 23, 24, 26, 27 溝部
- 17 キャップ装着部
- 18 操作部
- 22 第1の折り返し部
- 25 第2の折り返し部
- 29 天井部

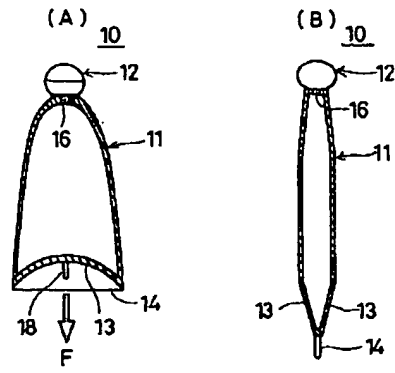
【図1】



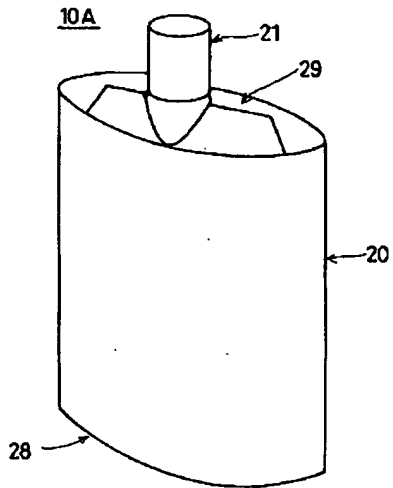
【図2】



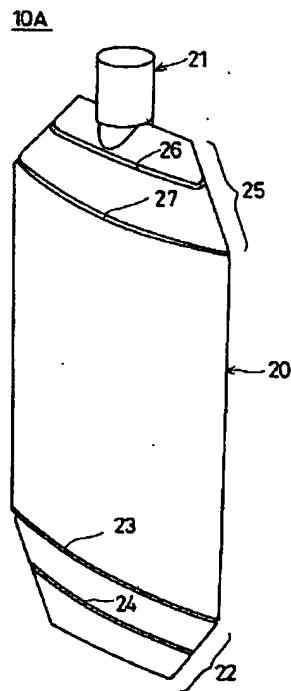
【図3】



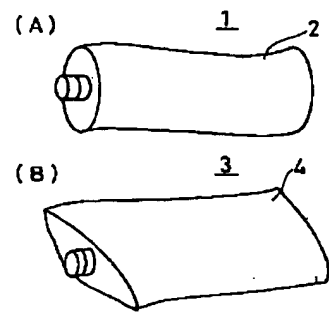
【図4】



【図5】



【図7】



【図6】

